



野
蠹
錄

矢島忠琢撰

洋学文庫
文庫8
A 191



25
118
244

野
營
錄

野
天
虫
録



野蠶錄

信濃 矢島忠琢



山蠶

野繭 布雅

蠶 曹縣志

繭由 新

野蠶 集

山蠶

クマユ 古同

カヒラ ノラカヒラ

カヒラ ノラカヒラ

カヒラ ノラカヒラ

カヒラ ノラカヒラ

カヒラ ノラカヒラ

カヒラ ノラカヒラ

クマユ 古同

カヒラ ノラカヒラ

カヒラ ノラカヒラ

カヒラ ノラカヒラ

カヒラ ノラカヒラ

カヒラ ノラカヒラ

カヒラ ノラカヒラ

山野搦棹教落樹等、白生虫、大枝、限、又、野、秋、子、稔、青、黄色、橘、樹、虫、山、柝、樹、虫、日、卵、生、重、長、ス、徒、テ、這、虫、其、形、子、蟬、蛉、異、テ、全、身、黄、色、頭、頭、目、処、白、毛、茸、テ、大、抵、替、替、之、彷彿、多、追、長、ス、徒、テ、肥、大、巢、中、止、り、旧、皮、破、裂、脱、出、テ、如、蠶、虫、之、三、四、度、及、テ、俚、俗、是、体、信、又、餌、葉、世、一、總、テ、如、蠶、虫、動、搖、屈、曲、其、中、之、早、産、別、アリ、又、長、ス、至、リ、テ、薄、脱、一、二、三、銀、星、頭、ハ、アル、ト、尤、下、アリ、又、蠶、ヲ、ク、ラ、シ、ト、ル、檢、査、ハ、咽、喉、下、リ、決、リ、追、透、明、ヲ、顯、ス、大、懸、ケ

蠶近之又家飼之六六撰之肥水之移之又山野より虫ヲ採取庭樹桑葉
放之類ハハ舊蠶繭同之又舊蠶卵子ヨリ破裂生育桑葉ヲ刻之懸之置之ハ
自食又長ス及ニ刻マヌ食フ又野蠶卵子ヨリ破裂旧皮脱出生育徒ニ
自ラ芽葉ヲ食フニ自別也又舊蠶トハ類ヤウニ大ニ異也

注古より皇國ヲ舊蠶ヲ山繭 類ハ別ツテ詳

山繭只唐土ニハ漢ノ時ヨリ生ヨリ思フ今之野蠶也者也

皇國神代惶根尊ノ頃ヨリ天然之生虫ト見ヘリ又元録年間ノ頃ニ館布

祭多セシテ其後絶テ又改年中頃才タリテ漸ク試驗ノ名ヲ製採セリ

崇州岷江那水之城南之有村信名製之始ニ類又
名曰野蠶也三十年前ヨリ山繭類フテ始ク今ノ專之
完化名第館布織物等日製スル始ム

大和本草云野蠶繭ヲ作リ村民採テ製糸ト云館布織子謂リ

古今註云元帝永元四年東萊郡東牟有野蠶為繭生蛾生卵着不

東

取得萬余石民以為絲如絮

示雅翼曰桑繭野蠶不養人就桑食葉作繭者比家繭也而行疾其作繭長

半寸以葉而隨而長其一面干多則歲宜蠶野人嘗以之舊繭之熟否

夏尚之時美人負繫絲今之山繭者是也雖然舊蠶共山繭食葉而不食餘木

不食於鄉不類於里唯山野民常之近有一種蟲者食儲及棉吐絲多繭如繭

繭而其絲少扣金音時人亦呼為山繭

集解註云諸名皆食科之木因之各トス

昆蟲草木畧曰 野蠶 樗葉 棘葉 桑葉 食之者哉

一説 野蠶繭 樗葉 棘葉 桑葉 繭繭等雞卵状ト為大蛾ト亦形狀異也

比禽屬也

土踊者野蠶之所化蛹者蝶之所化也

野飼無害

大凡雨 烈風 俄暑 炎熱 季候 暑熱
冷風 俄風 南熱風

無害 日向方 寒く勢 生育

桶飼之害 同音向 虫瘦 北音 虫風 南風烈

桶ニ擦掉ヲ挿之山野 才生育ナルヲ拾ヒ採リ取テ種ヲ桶飼家餌ニシテ

三春月十日目ヨリ 卵子破裂皮脱テ八圓知ニヨリテ 季子候寒暖冷ノ 早産ナルベシ

一説ニ 八尺夜ノ頃ヨリ 桶ニ擦掉教落樹等ノ芽出ラ見斗ヒ竹筥ハ産メ

附タル卵子所ヲ三寸位切り取り 藁等以テ大ヤ水ニ係ス 縛リ置テ自然ニ卵子

皮脱テ 從テ這ニ出テ 葉ヲ食フ

又一説 紙長五寸中ニ等位ニ葉表糊ヲ卵子ニ粘リ 並雙テ丸重サヲマヤ

ウニ附テ 天中木等北方ニ向テ張置クベシ

餌菓 擦掉ヲ活樹等最上トス 依國所者 櫛 大葉標也

葉萎 炎暑中ニ虫毛水ヲ好シ 誤リテ枯死スルアリ 園圃ニ種スニ日ニ水炮及テ三度ノ灌クベシ

雜木 藤ツル下ニ付シ 又大風通リケレキ 場所アリ

木綿蠶油 縦草綿糸 横山蠶糸

近代流行品 山重糸織 綿縮緬 縦横格字綿 子持了即入

縹紋リ 其外仕好 美濃波草 上州郡馬郡 西上京 土産 縣下 相生町

土蠶 大山人蠶損五疋發風夜啼 眼咽斜等 將醬油漬燒食之速効アリ

又 イタリヤ 婦人生山重裏中ニサシ燒食之

又 松露虫 奥州南部山人將醬油ヲ漬燒食之自別ニ此載ス

右此等ハ依國風土食之無毒之品ナレバ青臭ク匂アリ

朝鮮ツタ 常州下妻 マルツタ 通称 オランタパンヤ 徐長卿一種

嘉永四年夏四月下種之苗高サ七八尺及ノ葉四葉互生花赤紫色辦雌黄色ヲ
 帶リ秋七月末花冠之后結莢状徐長卿苗惟摩路石等彷彿多葉ノ汁ニ如キ到
 テ寒之畏ル入宿養柵入莖葉ヲ摘切ト白汁ヲ出ス今絶之見不擊

信州中島山人誠驗多ク作り英綿ヲ採取ニ草綿ニオテ也綿布又元泥
 アリ暖ナル下種雖布同シ又莖皮ヲ水浸シ紙ニテ製造セ又下ノ習ヲモ下ニ民用
 品ニ也今絶シタリ又常州下妻ノ里ニテモ先年多ク作り草綿ニオテ也如常
 トノ堅横ニ草布織トシテ免潤帶肌附輕品老弱人ニ最ク品ナレモ
 今絶ヘタリ又薩摩摩路石等ノ莢及徐長卿白茅少穂摘採リ取リテ能
 シ夫鍛鍊製造ノ如キノ如キ撰ヒ手術所要指布多ク又ノ草布最上布
 ニ織ユガタシ

楝クヌギ



野蚕

シバ 信州方言



野蚕虫
 飼葉最上者

餌葉再芽者

六月廿用ノ頃ハ旧樹ノ芽
生ルニ由食障リナシ

野飼虫者

新曆六月中旬ノ頃より八月上旬迄ニハ
爾ヲ捕始ト心得ベシ

野飼子一心得者

早ク苗ヲ屋ヲ補理スニテ者番人之心得方ニ三六魚美

薰香アル者ヲ採ス

虫之害

赤蟻 伏木別所 蜂ノ美 蠟毒
鳥 鳥 猫鳥 木鼠 鴉 カケス

孤屬 蛇ノ美 才亦 惣テハ鳥ノ美

除 蟻

一名蟻之光



石花菜 越後産
トコシゲク
又ニゲク

黄也根
際ニ三尺
田ノ灌
置スル

鹿角菜 越後産

ツリ 種美多シ



鹿角菜

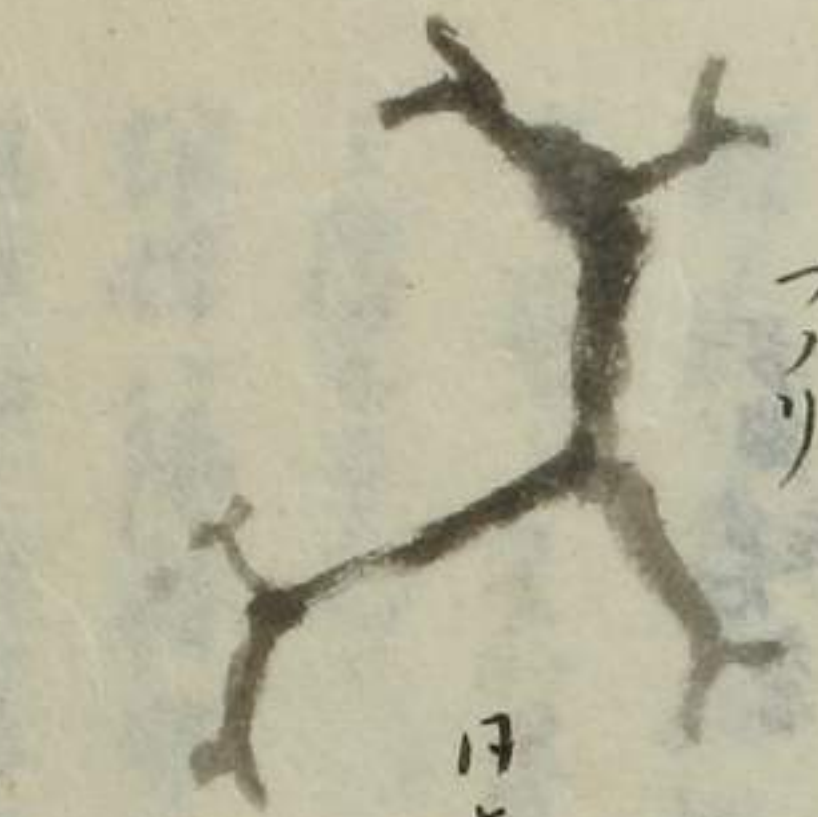
ツリ

ハ上

一説 アリヨケ

海冬 ナマユ

ハ上



石硫黄

イウニワリ



除 蛇

一名ハロヨケサ 狸

ハゲソウ

腐爛ニシ身水ヲ
根際回リ灌スニ



秋月草高サ三四尺枝ヲ分チ葉稍ハシニ並リ六葉或ハ八葉対生四莖ニ互生ス梢
穂ヲイシ花アリ五瓣黄色又決明ニ似テ右ノ葉ヲ結フ実田々長サ三四寸熟スルハ
茶褐色中ニ子アリ又黄蜀葵子ニ似テ肉頗アル長シ

蛇滅門外

田(又ハ捕(回リ)下種ノ
培生ルヲ佳トス



折採

黄花
状チ

虫病急者

俄ニ身竹黄也又舞金皮ニ黒鳥ヲ頭ニ背中ヨリハ口破裂衣所ヨリ細虫發出ノ
細糸狀頭ニ腫降ノ争ヒ暫時心体枯瘦ニテ死ニ至ル季候不同ニ依テ察スルニ

種ヲ採リ取テ雌雄ノ蝶ヲ混テ茶ニ入セ養ハセ直ニ孕ムトハ種蝶ニ異ナラス又雄
蝶ヲ取リ捨テ雌蝶ノニ電ニ入殘又雄蝶ハ暮方何シヨリカモ来リテ電外
ヨリ養テミクルハ生長ニモ弱ト如前条孕ム卵子ハ竹電縁ヲ通り所ハ宛リテ産
ニ附ルモノ也

雄蝶ハ陽精勢ト盛ナルニ電ヲ穿テ破リ出ルハ雌蝶ヨリ早シ
雌雄卵ノ檢査真雜卵ノ如ク光アルハ雄也田ノ雌也
蛹ニ粗生ルアリ

重腐爛 檢査心得アラハ神速ニ培ニ撒クニ

重ヲ穿テ破裂シクルハ糸ハスス也 州ノ灰汁ニ浸シ卵ヲスル

又政年常州水戸城南一里余笠原村ニ俚民始テ家飼養フヲキ、幸ヒ彼地
イタリ五人間ヲ各ニ一娘ヲ法ハ標字居樹寺館葉蠶虫ヲ養フヨリ至テ
年輕也元来山野生虫蛇ニ日曆ハハ夜頃ニヨリ、卵子ヨリ破裂重長シタラ



標ノ取テ庭園ニ標字居付植込致テ自前御業ノ商賣ナル又田場所大凡廿
 間四方ニ植込ニ木ノ高廿丈充久天升ハ繩ヲ張リ中央ハ鳴子繩ヲ番ノ房
 リ昼夜ノ無差別牽鳴クヨリス

又也原別ニ田畑畔ハ標ニ多ク植込高廿丈又ヲ限リトス年々歲別ニ取置キ
 摘葉先差支採リ取ルニ能キ挿ニ提詳舊文政年中ヨリ始メシヨレニ五人今
 三六追ニ國益ニ品檢所ハ繁多製造セタ夕ハ爾々濃州政阜縣下上州
 群馬郡相生所西高年ニ結布商社高價ニ標ハ運贈及リ也

絲製造辨

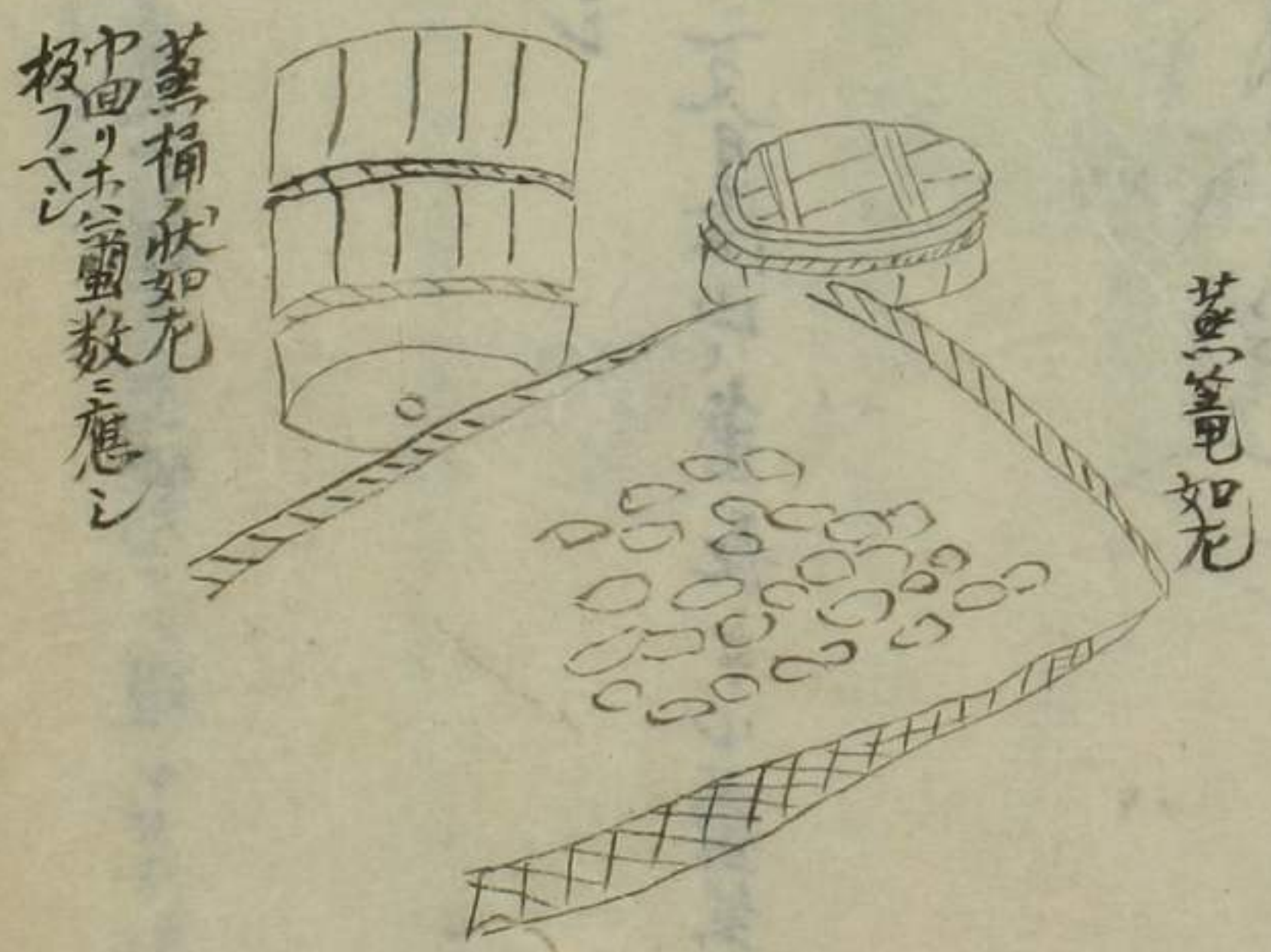
標葉青葉灰汁並ニ五色州灰汁ニ品ヲ白湯ニ交セ鍋中ニ置キ熟シテ煮テ糸
 和テ爾ヨリ絲ヲ採ルニ云々牽繰ル也 但 綿線糸如ク兩手取テ牽繰ルニ

又五色州汁竹根煮汁 炭汁 右三味等分入煮テ糸和糸ヲ下心得ベシ
 爾ニ死活在混茶ニテ早ク焙爐ニ懸蒸テ後爾ヨリ糸ヲ牽繰ルニ

蒸桶之辨

由臨餅食青葉ヲ刻シ
 爾ニ交ニ赤飯ヲ蒸テ
 如クスベシ
 又桶ナキ竹分蒸籠ニテ
 蒸テモ可シ

湯ニ三分方最下ノ時限ハ五七間
 程多ク採リ出シ平籠ハ日陰風
 通ヒ能キ所置乾スヲ肝要トス
 又蒸加減ヲ檢査スニ桶ノ葉ノ青キ
 蒸籠ノ處ハ蒸ス又桶ノ葉ノ字
 ニテ採ルニテ糸和テ蒸テ度トス



蒸桶成知元
 中回リ蒸籠敷ニ應ニ
 扱フベシ

蒸籠知元

又蒸桶ヲ殺シ白ク乾シタル糸光泥最上ノ又一説、蒸籠ニテ殺シタルモノ糸
茶褐色ノ光泥ナレバ
又焙爐ニテ殺シタル糸ノタチアリ
又蒸桶乾シ搦、惡シキ糸光泥ナレ
又日向山ニ重長シタル繭糸光泥ナレ
ナレ

煮加減之法

鍋ニ清水ヲ入、蠶ノ糸ヲ
煮加減ノ宜キ度トス
又鍋ニ輪ニ載セ、一日燥炭
程前ニ炭汁水、煮上置致カ
シ、入冷水ニハ、湯カヒテ、牽
ハスベシ



糸口、初メ引出冬ハ
五色州汁、見斗ハ
強ク又速ニ糸口ハ
出レ下可心得
又根管灰汁、カ
青蒿灰汁、カ

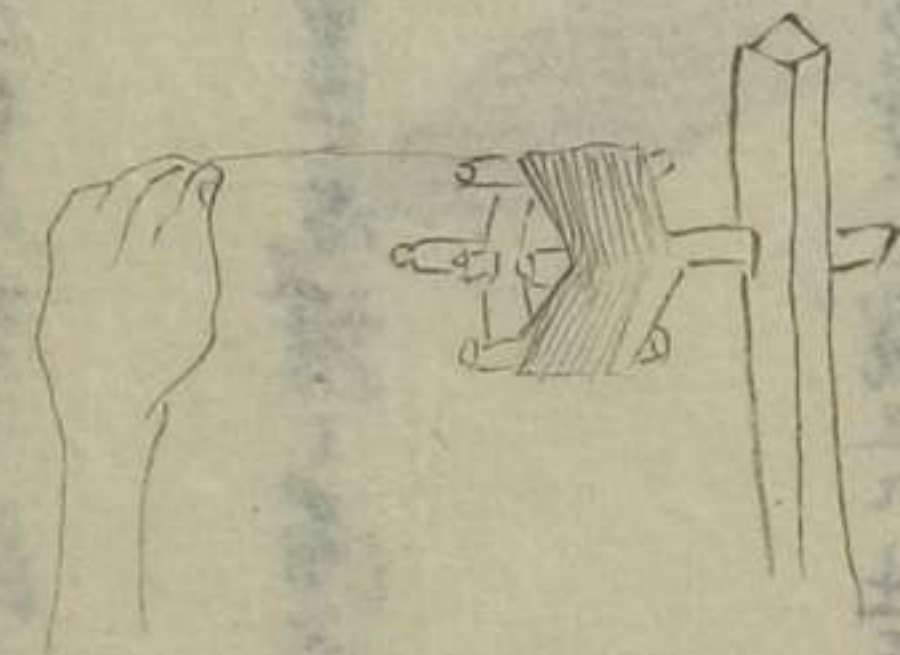
一法

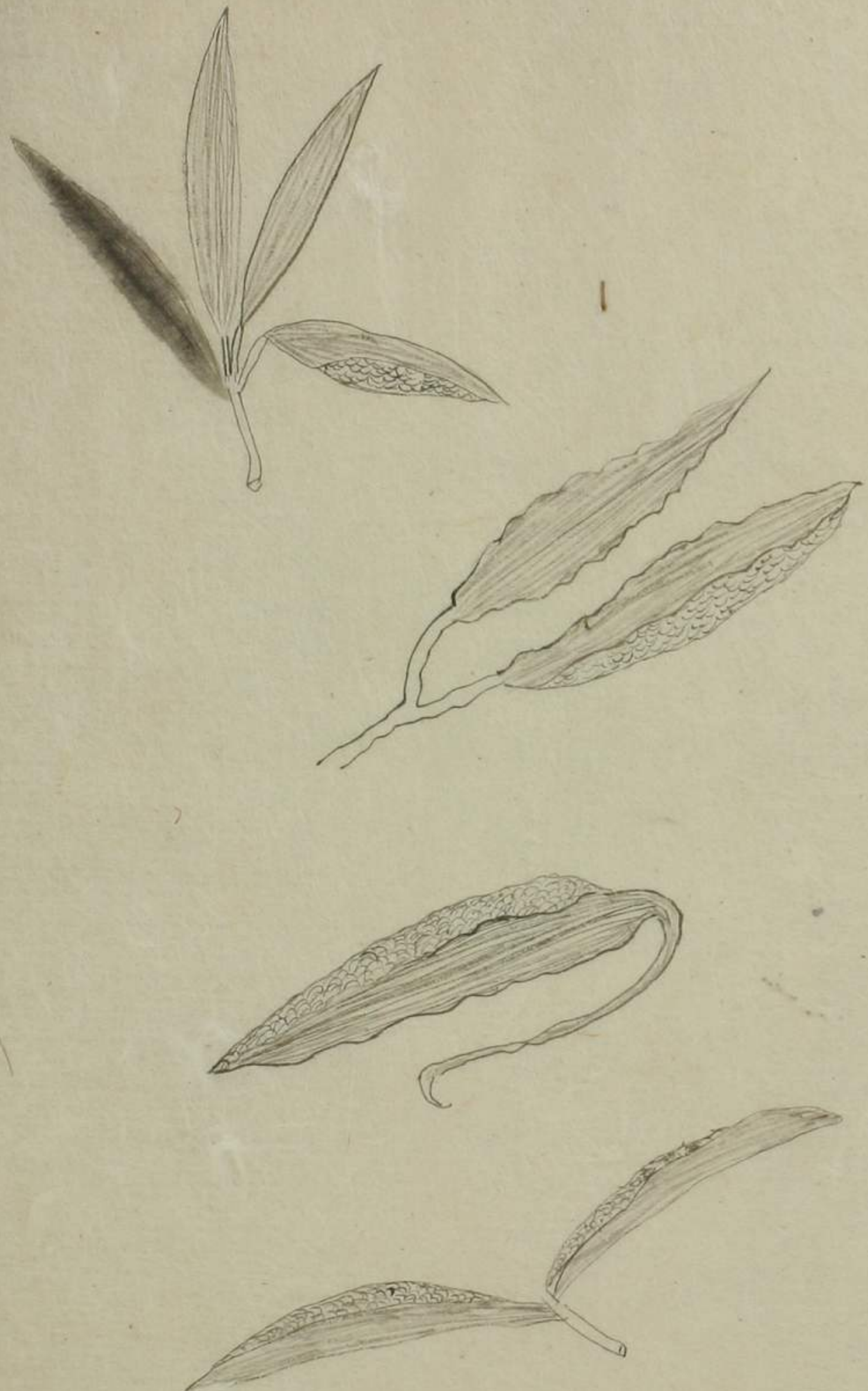
木灰 枝葉ナキ中ハ
佳キ枝ニシテ
青蒿 生焼五色州、莖灰等、カ
熱湯ヲ掛ク、スラ、スラ
サラシハ、灰汁、上水ノ冬、タル
右、灰汁、氣、殘、カ、糸、弱シ
熟シ、水ヲ、數、度、濯、洗、シ、
肝、要、ナ

鍋ヨリ、蠶ヲ、ワ、ツ、位、ヲ、搦、出、シ
糸口ノ切、タル、ハ、心、ヲ、木、並、ニ、テ、蠶、ヲ
カ、キ、回、メ、下、自然、ニ、糸、口、出、テ、妙、シ
又、葉、ナ、キ、枝、乾、葉、ニ、用、ユ、ル
毛、佳、シ、又、茄子、ノ、葉、ヨリ、青、蒿、キ
并、ハ、莖、枝、ヲ、搦、置、テ、用、テ、ニ、佳
ナリ



舊、蠶、糸、中、搦、採、ル、モ、佳、シ
丸、細、糸、也





上中下等重混茶之七如前条灰汁者ヲ蛹汁茶褐色濁水ヲ度清水ヲ
以テ晒ス肝要トス

又蝶ノ出殻 一名巢殼 葉汁ニ三日漬之置度揉之濁水ヲ取置(孰)

揉晒ニ后々如第トス

翻法 口殺 煙揉(口)

女子等半六七込ヲ下ノ手折切者撰ニ織ニ任ス

重油織 種青 一名山重織 又山重織

和重油 縦條(何百) 横條(口)

和重油 縦條(何百) 横山重條(口)

糸縷重油 縦横(山重條糸) (口)

油重油 一名真綿重油 縦真綿糸(何百) 横山重糸(口)

